

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第 5 回

日文研



京都

アカデミック
ブリッジ



時代劇をつくろう
太秦の力

パネリスト：澤田 瞳子（作家）

パネリスト：谷 慶子（脚本家・立命館大学映像学部准教授）

パネリスト：三谷 昌登（俳優・脚本家）

パネリスト：磯田 道史（国際日本文化研究センター教授）

進行：西田 彰一（国際日本文化研究センタープロジェクト研究員）

要申込

入場無料

定員100名

（抽選による）

2022. 8.11（木・祝）18:00～20:00（開場17:30） 京都新聞文化ホール

（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）



THEME

時代劇をつくろう 太秦の力

今年は、かつて映画館が林立した新京極開通から150年。来年は松竹下加茂撮影所設立から100年、2025年には阪東妻三郎プロダクションが太秦で初の撮影所を設けてから100年を迎えます。数々の名作を生み出してきた映画産業のまち・京都で、原作者や脚本家、俳優と研究者が、未来の時代劇を語り合います。自由で楽しい議論をお楽しみください。



パネリスト 澤田 瞳子

作家

1977年京都市生まれ。同志社大学大学院博士課程前期修了。2010年『孤鷹の天』でデビュー。同作で中山義秀賞受賞。16年『若冲』で親鸞賞受賞。20年『駆け入りの寺』で舟橋聖一賞受賞。21年『星落ちて、なお』で直木賞受賞。他に『火定』『落花』『能楽ものがたり 稚児桜』『輝山』など。『輝山』は京都新聞朝刊などで連載した。好きな時代劇は「白虎隊(1986)」。



パネリスト 谷 慶子

脚本家・立命館大学映像学部准教授

1968年大阪市生まれ。大阪芸術大学芸術学部映像学科卒業後、目標である脚本家への第一歩として東映京都撮影所に所属し、撮影現場でのさまざまな情報を記録・管理するスクリプターとなる。2003年、新人脚本家の登竜門である「城戸賞」で準入賞、脚本家としての活動が始まる。京都新聞夕刊コラム「現代のことば」を連載中。好きな時代劇は「忠臣蔵」。



パネリスト 三谷 昌登

俳優・脚本家

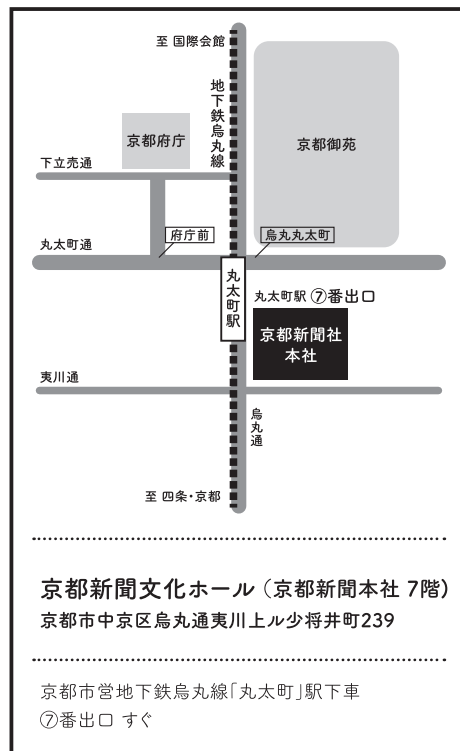
1977年京都市生まれ。俳優・脚本家・ラジオDJとして活動中。主宰する「劇団6.89」では脚本・演出・出演を兼ねる。2010年MBSラジオドラマ脚本「罪と罰と人情」で民放連最優秀作品賞受賞。テレビドラマ「軍師官兵衛」「青天を衝け」「ドクターX」「カムカムエブリバディ」などに出演。脚本に、「スカーレット」「雲霧仁左衛門5」など。好きな時代劇は「雲霧仁左衛門」。



パネリスト 磯田 道史

国際日本文化研究センター教授

1970年岡山市生まれ。慶応義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(史学)。茨城大学助教授や静岡文化芸術大学教授、日教研准教授を経て、2021年4月から現職。専門は日本近世史。著書に『日本史の内幕』『無私の日本人』など。『武士の家計簿』は2010年に映画化。大河ドラマ「西郷どん」では時代考証を担当。好きな時代劇は「独眼竜政宗」。



参加申し込み方法

参加ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数(複数名参加希望の場合は全員の必要事項)、パネリストへの質問事項を明記の上、はがき、Eメールまたは右記応募フォームで下記までお申し込みください。応募多数の場合は、抽選で100名に聴講券を送付します。



締め切り: **2022年7月28日(木)** (必着)

〈はがき〉〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内「日教研ー京都アカデミックブリッジ」係
〈Eメール〉keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
〈応募フォーム〉https://kyoto-np.jp/_JwNoZmY

※応募者の個人情報、京都新聞COMが管理し、本事業の運営と日教研関連事業のご案内に使用させていただきます。また聴講者に新型コロナウイルス感染者が発生した場合、要請があれば保健所等の公的機関に情報提供いたします。

※本事業の取材を希望される方は、右記のアドレスにご連絡願います: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp